



全フ野刊  
ラフ矢書  
ク・国刊  
ラウ・監  
P・郎  
H・三  
定集ト浩行  
1・(編) (10/24刊)  
3200)

年代順に編まれた個人全集の、第一巻である。三十二篇の小説、二篇の評論、その他年譜、解題からなる。定本とあるのは、ラヴクラフト自身の原稿から、現行本の誤りを正した、完全版であるという意味。全十巻、小説から書簡までも収めた、堂々たる全集である。

今や、マニヤの領域から外れて、様々な係累を生み出しつつある Cthulhu 神話だが、極め付きである本家ラヴクラフトの存在は、揺るぎがない。本家以外で、ある程度以上の水準を示した作品が、少ないからだ。舞台だけを借りて、全然別の話にしてしまった例も多い。それはそれで、価値があるのだろう。しかし、本流に迫るものとはいえない。

それなら本家は、ということになる。ただ、この巻では短いものが中心で、後期の凄まじさは、まだ本格化していない。処女作や、十代の作品など、書誌的価値が中心になるようだ。短篇作家で、しかも年代順である以上、仕方がないものの、やはり、中篇ぐらいは欲しい。

ところで、Cthulhu は、本書の場合クスルウーであり、同社から他で出ている、ク・リトル・リトル、ではない。

(俊)